

よさこい祭り運営補助業務への学生参加の促進に関する研究

1250408 海路 奈美

指導教員 土屋 哲

研究背景

よさこい祭りは高知県最大の観光資源とも位置付けられており、2023年の開催に伴う経済波及効果は79億2千万円と報告されている。しかし、現在各地の伝統祭事の消滅の危機に直面しているように、高知よさこい祭りも存続が危ぶまれる一面を見せている。その要因として、参加者の減少だけでなく、商店街の競演場運営に際しての資金不足や人手不足・後継者不足があげられる。

研究目的

本研究は、高知よさこい祭りにおける学生の運営参加を事例に、学生の運営ボランティアの参加動機を外発的動機の観点から明らかにする。さらに、ボランティアの枠にとどまらず、アルバイトやインターンシップのような形態も含めて、商店街が運営補助スタッフを募集する際の実践的な方法を提案することで、高知よさこい祭りの存続と発展に繋げる。

研究方法

よさこい祭りの運營業務に関して、商店街や業務に携わったことのある学生にヒアリングを行い、重要と考えられる属性を選定する。次に、これら複数の属性を組み合わせた運営補助業務の内容から望ましいものを学生に回答してもらう調査を実施し、コンジョイント分析を行うことでどのような条件が最も学生の参加意欲を高めるのかを検証する。

分析結果

①作業時間、②金銭的報酬、③キャリア、④商店街組合員との交流、⑤特典、という5つの属性について、それぞれ複数の水準を設定し、これらの組み合わせでつくられるプロファイルを用意して一対比較方式で回答を得た。コンジョイント分析の結果、①作業時間は短いほど、②金銭的報酬は高いほど、④交流は「十分あり」が、⑤特典は「あり」が、それぞれ好ましい結果となった。③キャリアは「ガクチカ」が最も好ましいと判った。

考察・結論

1,2年生は長時間の作業を受け入れやすく、キャリア形成の機会を重視する傾向があるが、交流の優先度は低い。一方で、金銭的報酬は非常に重要である。3,4年生は短時間の作業を好み、柔軟なスケジュール調整が求められる。金銭的報酬も重要だが、「半分」の報酬でも参加意欲を高められる可能性がある。キャリア形成への関心は低く、交流や特典を重視するため、十分な交流機会や特典の魅力を訴求することが効果的である。